みたねの学校

小・中学校と地域の交流を紹介

砂像造りに挑戦
サンドクラフトに出展

湖北小学校

浜口小学校

夏の一大イベント「サンドクラフト」開催に合わせて八竜地区の小学生が砂像造りに挑戦しました。

浜口小学校４年生は２班に分かれて事前に考えた完成図を見ながら大まかな形に削り、ヘラやコテを使い徐々に細かい部分の形を整えていきました。保護者にも協力いただきながら見事な２基の砂像を完成させました。加賀谷侍穏さんは「水かけや細かい所を掘るのを頑張った。かっこよくできたので賞に入ってほしい」と笑顔でした。

湖北小学校３・４年生は３・４人組になりバケツ大の小型砂像造りに取組みました。ジンベイザメやパンダ、ドラえもんなど事前に考えた動物やアニメのキャラクターの設計図を見ながら道具を使って慎重に砂を削り形を整えていきましたが、途中で崩れてやり直す班もありました。「頭を丸くするのが難しかったけど上手にできました」と満足そうに話しました。

伝統の番楽を継承

琴丘小学校

「手をがしっと組んで」「刀はしっかり下げて」

今年度も琴丘小６年生が地域伝統の「中館番楽」の練習に励みました。指導者は中館番楽保存会会長の近藤和雄氏。底辺拡大と大人になっても覚えていてほしいとの思いで５年目の取組となりました。ビデオで細かい動きを確認した後、３・４人になり笛や太鼓に合わせて場面ごとの練習に取組みました。扇子や刀などを持ちながら独特な踊りの練習に励みました。最後に模範の踊りを披露した佐藤仁夢さんは「難しい動きも練習で覚えた。公演では元気に踊りたい」

池内鴻さんは「最後にほめられてうれしかった。最初の頃よりうまく踊れるようになった」と笑顔でした。児童の希望者は13・14日、中沢公民館と館村公民館で開催された公演会に参加し練習の成果を披露しました。

中学生が地域の祭りに参加

琴丘中学校

夏休み中に中学生が地域の夏祭りに参加し、踊りや演奏で盛り上げました。

８日には琴丘中学校３年生が「希望苑夏祭り」に参加しました。ボウリングや輪投げ等のゲームで交流した後、恒例の「よっちょれ」を踊りました。鳴子を持ちながら元気いっぱい踊る様子に参観者からは大きな拍手をいただきました。古関瑠偉さんは「よっちょれを踊って希望苑の皆さんの笑顔がとても心に残りました」渡邊茉央さんは「今回はあまり体験できないことができたので良かった。この体験をこれからの生活に生かせるように頑張りたい」との感想を話しました。

読み聞かせで交流

あのねのネ

この度、山本地区読み聞かせグループ「あのねのネ」（三浦重一代表）主催による「第13回読み聞かせフェスタ」が山本公民館で開催され読み聞かせや物作り体験などで子どもたちと交流しました。

大型絵本を使ったり道具や動きを工夫しながら興味を引きつけていました。寸劇「めんどりとゴキブリ」では子どもたちもゴキブリ役で急遽参加していました。最後には講堂に場所を移し「フクロケット」「オリジナルブローチ」作りに挑戦しました。

読み聞かせの読み手として参加した髙橋玲那さん（金岡小６年）は「緊張せず楽しくできた」同じく石井美羽さんは「初めて参加したが上手にできた」と笑顔で話しました。

物語の世界に思いを寄せ

琴丘中学校

この度、琴丘中学校で同窓生による読み聞かせが行われ、全校生徒が物語の世界に思いを膨らませました。

読み手は同校卒業生で元劇団俳優の近藤真行さんが担当しました。BGMを使い強弱をつけながら表現を工夫し「かわいそうなゾウ」を読み、生徒を物語の世界に引き込んでいました。迫力ある読み聞かせに生徒は真剣に聞き入っていました。

鈴木響介さん（１年）は「声のボリュームや表現の仕方などを工夫して読んでいて、心にしみるような感じでした」斉藤佑香さん（２年）は「とてもリアルでBGMも場面、場面で違い話に完全に入り込んで聞けました」見上廣之丞さん（３年）は「戦争に対して訴えかけている場面は、自分も胸がしめつけられるような思いになりました」との感想を話しました。

編集後記

琴丘小で行われた中館番楽の練習を取材して、指導する近藤会長の熱意に感心しました。「おれはいいから子どもたちの頑張っている様子をいっぱい撮って紹介してくれ」子どもファーストの言葉にも感動しました。地域の伝統を継承する事業は今後も続いてほしいと願いました。

第５号
－発行者－
三種町教育委員会
教育活動推進員
渡邊　清彦